

令和3年度 第1回白馬高等学校学校運営協議会 議事録（概要）

- 1 日 時 令和3年（2021年）6月7日（月）9時30分～11時15分
2 場 所 白馬高等学校会議室
3 参加者 委員9名（欠席：白戸洋委員）

この他、長野県教育委員会より2名
（高校再編推進室 室長：駒瀬隆氏）
（同 主任指導主事：佐野浩一郎氏）
白馬・小谷両村関係者4名
白馬高等学校職員4名



4 次 第

- (1) 開会の言葉（井出白馬高校教頭）
- (2) 長野県教育委員会挨拶（駒瀬高校再編推進室長）
- (3) 学校長挨拶（関校長）
- (4) 委員の自己紹介
- (5) 委員長・副委員長の選出
委員長に白戸委員、副委員長に武田委員を選出、承認される。
本日、白戸委員長欠席のため、副委員長の武田委員が議長を務める。

(6) 報告事項

① 学校の現況報告（関校長）～配布資料を説明

- ・卒業生の進路状況/在校生の進路希望調査/入学生の数（県外・県内他地区・地元生）/今年度の生徒募集活動/入学動機等アンケート/校長による1年生全員面談での印象
- ・今年度の取り組み/オンライン国際交流/高校生ホテル/循環型経済ワークショップ/有志による3つのプロジェクト/地域との協働による教育改革推進事業の成果検証
- ・新しい評価「学びの指標」について/試行結果から見えたこと/ICT活用について

質疑・応答

<伊藤委員>

- 自己評価は年に何回行う？ 自己評価項目に「自分にはよいところがあると思う」の項目はいい。先生方はどのように評価されるのか？

<校長>

- 2回行う予定。本校の教員は若い人も多く、生徒を近くでよく見ている。面談や部活や放課後などで生徒と接しており、しっかり生徒評価が出来ると考えている。

<伊藤委員>

- 先生との相性などもあるので、いろいろな窓口で相談できるようにして欲しい。

② 寮運営等に関する報告（松澤事務局長・柴田事務局長補佐）～配布資料を説明

- ・施設として男子寮を縮小/公営塾に特進コース設置/スタッフ研修やイベント実施を盛り込む
- ・支援事業の予算規模
- ・地方創生推進交付金事業に申請中/学校案内のチラシ発行/コーディネーター配置今年はない
- ・寮生アンケート結果

質疑・応答

<下川委員>

- 学校と支援係と県教育委員会との連携がうまくいっているのは有難い。

(7) 審議・確認事項

令和3年度学校経営計画について説明（関校長）

- ・重点目標に「個に応じた生徒支援と特色ある教育活動の推進。募集活動の強化」
- ・①学習、生活両面での個に応じた丁寧な支援と指導
- ②地域からの提案を活用した多様な学びの機会提供とキャリアデザインの具体化支援
- ③支援係との連携強化
- ④地域みらい留学を通じた全国募集の推進（目標15名）と地元生の確保のための情報発信・生徒交流
- ・大職員室の継続、クラス固定しない副担任で機動的に。ソーシャルスキルを高める研修など。
- ・昨年行えなかった高校生ホテルの実施。
- ・次年度からの教育課程に学校設定科目で全員必修の「北アルプス学」を新設、入学時は2学科・卒業時は3コースに。
- 普通科でも観光を、国際観光科でも理数系の学びを可能にし、一般入試にも対応。

質疑・応答

<岸委員>

○募集にコロナの影響が出ているか？

<関校長>

○影響は強くある。県外も県内他地区の方も親元離れることに不安があったようだ。

<岸委員>

○白馬だからということではなかったのか。

○白馬ならではの学びの一つに自然科学の学びもポイントになる。大出には特別な水が湧き、貴重な動植物がいる。観光だけでなく役場への就職も。

○国際観光地といってもニセコは海外からの実業家、白馬は国内での実業家が活躍しているという差異も白馬の魅力として捉え、学びを深めてほしい。

○育みたい資質・能力のA～Eの5つのうち、特にどれに力を入れたいと考えているのか？

<関校長>

○最終的にはEの「キャリアデザイン」が重要。それにつながる力として残り4つが求められる。

<岸委員>

○人間関係が弱いという話だが、設立当初に比べて変化してきているのか？

<関校長>

○時代の反映でSNSなどでは自己主張できる半面、生身の人間とやり取りのできる能力が6年前と比べると落ちてきている。

<岸委員>

○評価項目で注目すべきはBの「他者理解」。

<武田議長>

○質問がないようなら、本年度の運営方針について、承認したいが。

それでは承認いたします。

残された時間で意見交換をしたい。特に地元生の確保問題などで意見がありませんか？

意見交換

<伊藤委員>

○アンケートでも白馬を知ったきっかけに親や親戚からという回答が多くあり、募集には足元からのアプローチが大事。今年は創立70周年でもあり、同窓会への働きかけを強めたい。

○部活紹介をもっと積極的に。漫画研究会などがあればいい。山が白馬小谷のアイデンティティなので山岳部に活躍してほしい。山岳ガイド養成や気象予報士への道、山岳部の全国大会での一定の成果を目指してほしい。

<相沢委員>

○委員の中に白馬中の先生が入っていないのはどうしてか？

<関校長>

○地域のバランスを考えてのことと聞いている。

<平田委員>

○公営塾に特進クラスができたという話だが、何人くらい学んでいるか？

<松澤事務局長>

○3名です。

<平田委員>

○SDGsですでに交流があるというが、白馬中への働きかけをもっと強めてほしい。

<出口委員>

○小谷中の吹奏楽部の顧問から白馬高校吹奏楽部との交流を求めている。白馬高校はスキーのイメージが東信や北信では強い。弓道部のように、高校から始める人の多い部活もあるので、ゆるく楽しめる部活もあっていいのではと思う。高校生ホテルにはびっくりしたが、長野商業高校の「長商デパート」のようなブランド力がつけばいいなと思う。小谷中3年の総合の時間で、今年は塩の道や小谷村の観光について取り組むので白馬高校にも関心を持つのではないかな。

<中村委員>

○関校長の学びの改革の話がありがたいしアピールしてほしい。新カリキュラムに期待。小谷中に来てもらって白馬高の取り組みを紹介してほしい。村役場への就職もぜひ受け入れたい。コミュニケーション力が落ちているということだが、校長の1年生全員との面談もいいことだし、村民あげて高校生に声掛けをしたり、日ごろから笑顔で話しかけるようにしていれば変わっていくのではないかな。

<下川委員>

○地元の子どもたちが半分以上入ってくればいいのだが。白馬高校の魅力をどうやって地元中学校に伝えるかが大きな課題。白馬高校同窓会長にも協力要請している。支援係の方でも同窓会と交流し現状を伝えて認識を共有して欲しい。

<武田議長>

○コミュニケーション能力に問題があるのは小中も同じ。文章で自分の気持ちを言葉にして伝えることができている。個に応じた生徒支援のスキルを先生方が学んでおられるのは心強い。白馬高に行けば進学できないという見方は変わらなければならない。大出の水が凄いいということなど自然科学のテーマを小中高と一貫して一つのテーマで研究していければ素晴らしい。小中高の連携にこの協議会が要になれる。子どもたちの成長に伴走していける運営協議会でありたい。

(8) 閉会の挨拶（井出教頭）

○第2回協議会は11月に、第3回は2月頃を予定している。できれば対面で行いたい。